

TAKE FREE

BLUE + GREEN JOURNAL

Okutama Town Official Magazine

奥多摩町公式タブロイド

深い森、緑の家。
House of Dreams.

03
Third ISSUE



House of Dreams.

深い森、緑の家。

この町に居を構えるということは、自然と調和して生きるということだ。

山道を30分登ってようやく辿り着く家や、
スカイツリーよりも高いところに建つ家。
はたまた、湖や清流のほとりに佇む家や、
築数百年という歴史にさらされた古民家など。

都市生活の基準から考えれば「不便」でしかない立地や条件も、
ごく自然に受け入れて、あるいは、自ら望んで暮らす人々。
その遅しくも美しい姿から見えてきた、本当の豊かさとは？

Mountain. BESS. Kids. Playroom. Music. Family. Cat&dog.

TAKUMA SAKAI

酒井卓真

House data

場所:奥多摩町峰谷
敷地面積:約90坪
購入価格:2600万円
標高:785m
築年数:4年
部屋数:3LDK
駅までの距離:奥多摩駅まで車で30分
ペット:フレンチブルドッグのひなたと、
キジトラのせんせい

生まれ育った土地に建てた、家族のための理想の家

山の中腹にある天空の集落、奥多摩町峰谷。周囲の尾根を見渡す標高800m弱の地点に建つのが、酒井卓真さんの家だ。スカイツリーを優に越すその標高は、現在人が住んでいる家としては、奥多摩でもおそらくトップ10内。すなわち、東京で最も高い場所に暮らす10世帯のうちの1つということになる。「僕の実家が900m弱のところであって、妻の実家も少し高いくらい。僕らにとっては幼い時から当たり前の環境なんです。確かに不便なこともあるけれど、それはもう覚悟の上。ここで暮らすメリットの方が大きい」。酒井さんと、妻の真由美さんは生まれも育ちも奥多摩。全校生徒十数名という密接な環境で、小学生、中学生時代を共に過ごした幼なじみだ。高校進学後、酒井さんは青梅や立川へ、

真由美さんは青梅へと一旦、故郷を離れたものの、結婚し、子どもが生まれ、「家を建てる」と考えた時には迷わず奥多摩を戻ると決めた。「自分たちがいたところに帰ろうか、という自然な流れ。昔ながらの地域の繋がりがあって、子育てする環境としてもいいですし。大人になったら一度は街へ出て行くことになるから今のうちに山での生活を体験して、大きくなった時に子どもたちが好きに選んでくれたらいいな、と」。一生 住む家だからと 建築



にもこだわり、「山に合う家」と人気ログハウスメーカー「BESS」に発注。大きな吹き抜けと薪ストーブが印象的な家は、木の温もりにも包まれた空間が心地いい。のぼり棒、ウンテイ、自作のクライミングウォールなど、子ども達が遊べる仕掛けも満載だ。多趣味な酒井さんらしく、ギター、キーボード、ドローン、カメラ、キャンピングカーといった遊び道具も揃っており、家の目の前には畑も。半径数kmで完結できる楽しみには事欠かないという。職場は、家から車で5分のところにある鹿肉処理施設。保育園に勤める真由美さんと子ども達が家に帰る17時頃には、酒井さんも帰宅。食卓や薪ストーブを囲みながら家族で団らんするのが日常だ。今後の暮らしの目標は？と聞くと、「今が相当満たされているからこのまま平穏な日々が続いてほしい」と迷いのない答え。自然豊かな環境で家族仲良く暮らす日々こそ、至上の幸せなのだ、彼らの笑顔が証明していた。



Art. Hybrid Life. Switch. Dog. Modern&Classic. Breakfast.

AKIRA&KYOKO OHTA

太田旭&京子

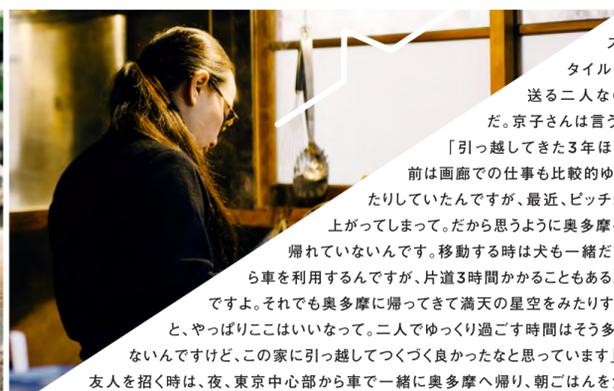
House data

場所:奥多摩町滝
敷地面積:約90㎡
家賃:携帯代約4ヶ月分
標高:326m
築年数:約70年
部屋数:5LDK
駅までの距離:白丸駅まで徒歩15分
ペット:犬のジョンは年齢3歳でやんちゃ盛り



忙しい二人のスイッチが自然と切り替わる、奥多摩の隠れ家

夫の旭さんは彫刻アーティストでありながら、奥多摩でラフティングやカヌーのインストラクターを務める。妻の京子さんは東京・目黒の画廊オーナーであり、アート関連の展示、イベントなどを企画、運営するお仕事。そんな夫婦が選んだ住まいは、奥多摩・海沢の古民家だった。旭さんは言う。「カヌーとか彫刻をするのに、ここは理想的な拠点。最近はこちらと都心に行くのが疲れちゃって(笑)」。東京の中心部で忙しく働く京子さんは、旭さんの実家がある五反田の家も利用しながら、東京の中心部と奥多摩を行き来。一方、旭さんは創作やカヌーツアーなどが無い休日、東京中心部へ出向くことも少なくない。実にハイブリッドなライフ



スタイルを送る二人なのだ。京子さんは言う。「引っ越してきた3年ほど前は画廊での仕事も比較的ゆったりしていたんですが、最近、ピッチが上がってしまっ。だから思うように奥多摩へ帰っていないんです。移動する時は犬も一緒だから車を利用するんですが、片道3時間かかることもあるんですよ。それでも奥多摩に帰ってきて満天の星空をみたりすると、やっぱりここはいいなって。二人でゆっくり過ごす時間はそう多くないんですけど、この家に引っ越してつくづく良かったなと思っています」。友人を招く時は、夜、東京中心部から車で一緒に奥多摩へ帰り、朝ごはんを食

べたらすぐまた東京へ、なんていうパターンも多いとか。それでも招いた友人は、来た甲斐があったと言ってくれるそうだ。「奥多摩にいるのはほんの一瞬なんですけど、天気の良い日に庭で朝ごはんを食べるだけでも最高の気分になれる。ここは瞬間的にオンとオフの切り替えができる場所です」。二人が思い切って引っ越しを決めた経緯はこういう流れだった。彫刻をするためのアトリエをまずは奥多摩・白丸で見つけた旭さん。いつしかカヤックのインストラクターもやるようになり、川のそばに住んだらどんな気分がいいかと夢想するように。そこから二人の決断は早かった。家探



のこだわりについて旭さんはこう説明する。「僕らが決めた優先事項は川まですぐの場所だということ。それと、古民家であるということ、犬を放せるような場所であるということでしたね。理想の家が見つかるまで4年もかかりましたが、それだけ待った甲斐はありました。奥多摩にいる時、僕はオンで彼女はオフ、東京の中心部ではその逆です。移動するだけでそれぞれスイッチが切り替わるの面白いし、心地良くもありません。家の中にはハンモックや品の良いアートピースなども多数あって、古民家の味とモダンなセンスをほどよくミックス。なるほど、普段、アートに関わる二人らしい、隠れ家的雰囲気だ。



KYUSUKE ISHIYAMA

石山久輔

Artist. Picture.
Self building.
Wasabi. Nature.
Atelier. River.

House data

場所:奥多摩町安寺沢
敷地面積:50坪
家賃:土地のみ5千円
標高:494m
築年数:16年
部屋数:2LDK(母屋の隣にギャラリーも併設)
駅までの距離:奥多摩駅まで徒歩30分
ペット:去年までアヒルを飼い飼っていたが、トビに襲われてしまい、今は3匹の金魚のみ

**セルフビルドで完成させた、
自然と調和するアトリエハウス**

奥多摩駅から坂道を登っていくこと約30分。わさび田のあるせせらぎ沿いに、美術家・石山久輔さんの家は建つ。隣接する民家がなく、森の中にひっそりと佇む隠れ家といった風情だ。広いアトリエを求めて、石山さんが奥多摩の地に暮らすようになったのは、今から32年前のこと。本仁田山の登山口にあった民家に住んだ後、16年前に現在の家を建てたという。「以前住んでいた古民家に惚れ込んでいたので、それをここに復元したんです。地主さんから土地を安く借りることができて、家は自分で建てると。首都・東京の中で最高の空間を造っていくって豪語してね(笑)」。20代の頃に建築設計をかじったことはあったが、家を建てるのは初めて。基礎と木造の骨組部分だけ地元の職人に依頼し、あとは独学で道を作り、橋を架け、沢から水をひき、電気をはいて、約1年半で住める状態にまで仕上げたという。木造の家は、1階はキッチン、リビング、和室を整え、2階は光がいっぱいに差しこむアトリエという造り。庭の借景が映える空間には、あちこちに植物や動物の骨など自然のオブジェが品良く飾られていて、どこに居ても季節の移ろいや自然の美しさを実感できる住まいだ。「自然ほど

完璧で美しいものはないから、ものをつくる人にとって自然に触れることは原理原則。先人たちは、衣食住に手間ひま掛けて自然に則した生き方をしてきたから、いいものが生まれてきたわけ。僕も美術家として、衣食住においても可能な限り理想の美を創造していきたい。車もテレビもパソコンも持たず、沢の水を使い、畑を耕し、山菜を探って暮らす、まさに昔ながらの生活。自然と調和するそんな暮らしの良さを伝えたいと、5年前には母屋の隣にギャラリーを増設し、家の見学も快く受け入れている。「家を造っている時に、家は自分だけの物じゃないんだって気づいたんです。色んな人の協力があって出来あがったものだから。それで、この家は季節のいい時にはオープンにして、老若男女が交流できる場にしよう。昔の日本人がそうしていたようにね」。



MEGUMI GOTO

後藤めぐみ

House data

場所:奥多摩町白丸
敷地面積:150坪
購入価格:900万円(改修費別)
標高:300m
築年数:約45年
部屋数:1LDK
駅までの距離:白丸駅まで徒歩5分

白丸湖の湖畔に佇む、カヤッカーの家

白丸駅から徒歩5分。エメラルドグリーン色に輝く小さな湖、白丸湖がある。湖畔には、ボツンと佇む家が一軒。まるで「プライベートレイク」のような絶好のロケーションにあるその家は、カヌースクール「GRAVITY」の代表・後藤めぐみさんが3年前に手に入れたものだ。「私が奥多摩へ移住した20年前からあった家で、誰かの別荘として使

われていて、『いい物件だな』と。カヌーをする人はみんなそう思っていました。鏡面のように穏やかな白丸湖は初心者でも漕ぎやすく、カヌーのメッカ。通常なら、道路からカヌーを抱えて斜面を下りる手間がかかるが、レイクフロントのこの家からならノースレスで着水可能。白丸湖の家以外にも、御岳と軍畑に拠点を持ち、自宅、ショップ、

シェアハウスとしての機能を、必要に応じて適宜使い分けているというめぐみさん。この家は、カヌー好きもそうでない人も利用できるコミュニティスペースとしての展開も考え中だ。「プレミアムな場所だから、もっと人ともシェアしていきたい。料理上手な友人とコラボして、朝カヌーの後に朝ご飯をここで食べるというプログラムも計画中なんです」。



KOJI HIGASHI

東晃司

House data

場所:奥多摩町海沢
家賃:月4万円
標高:307m
築年数:94年
部屋数:4LDK(母屋の隣に離れの部屋あり)
駅までの距離:白丸駅まで徒歩15分
ペット:これから猫か犬と一緒に住むかも!

少しずつ自分を変身させてくれた、築94年の古民家

かつて、東京・三鷹に暮らしている時は、音楽活動で生計を立てていたという東さん。現在は、ラフティングやカヌーのインストラクターを仕事とし、以前とは180度異なるライフスタイルを奥多摩・海沢で実現している。「バンドをやっていた時は6畳くらいの部屋に住んでいたので思い切り環境は変わりましたね(笑)。もともと物をたくさん持

つ方ではないし、メインの部屋はガランとした空間にしたかったの、壁を取り払って二つの部屋を一つの空間にしました。2階は二部屋あるんですけど、何も置くものがないので今は全く使っていないんです(笑)。1階にはメインの居室のほか、こたつだけを置いたシンプルな空間とこぎれいなキッチン。無垢材のフローリング貼りや壁にしつら

えた収納ラックは自作で。昔は料理もしなかったというが、奥多摩に住んでからはみそ作りも始めたという。「お客さんと一緒にものづくりのワークショップなどもやるので、竹からスプーンが作れるようになったり。なんで皆は都会に住んでいるの?と思うようにまでなっちゃって。こうやって自然と変わっていく自分を感じるのもなんだか楽しい」。



Huge House, Kizuna. Riverside, Cat. Fresh Green.

KYOKO OKUDAIRA

奥平 恭子

House data

・地域: 東京都多摩市
 ・建築: 持ち家
 ・構造: 395m
 ・築年数: 約140年以上
 ・部屋数: 3LDK (母屋とは別に2つの蔵あり)
 ・駅までの距離: 奥多摩駅までバスで10分
 ・ペット: ふさふさの毛がイチャイチャな猫のびーちゃんと金魚数匹



むかしみちの歴史を知る、薪の家

かつて旧青梅街道と呼ばれていた「奥多摩むかし道」は、奥多摩駅近くの氷川と奥多摩湖を結ぶ風光明媚な一本の道。起伏のある道中には惣岳の成田不動尊や馬の水のみ場、不動の上滝など昔から変わらぬ見どころがちりばめられ、歩いていると、まるでタイムスリップしたかのような錯覚に陥るほどだ。奥平さんの家はそんなむかし道に沿った、深い森と多摩川に面した山中にある。明治の始めに建てられたというが、外観から部屋の中まで痛みはほとんど見られない。広々とした部屋が3つ、4つと連なる開放感。川に面した廊下の窓からは、少しずつ変化する森の色彩を毎日楽しめる。

という。「もう私も90歳だから、外を出歩くのはちょっとね。家の中から外の景色は見えますからね。新緑の季節はほんと、緑がきれいで、山が碧くなるのはとってもいいですよ」。奥平さんがこの家に嫁いだのは今から69年前。その時から、静かに、丁寧に、この家とともに生活を編んできた。当初は、夫の両親に夫の兄弟を合わせ、7人暮らし。奥平さんも4人の子供を産み、実に賑やかな日々だったという。山での暮らしは不便かと問うと、こんな答えが返ってきた。「3年前の大雪の時は一週間、一歩も外に出られなくてね。でも、このへんは買い物も不自由するからいつでも10日間くらいの食べ物も揃えているんですよ。だから全然平気でした。台風の時、風がダムに当たって強くなったせいで、大木が家に飛び込んできたこともありましたよ。最初はなんでこんな所に来ちゃったかなと思いましたが、家も少しずつ建て増したり、修理したり

で、もう100年以上ですからね。都会は便利だけど、まあ私はここに嫁いだわけですから。住んでしまえば都です(笑)」。第二次世界大戦を挟んで行われた小河内ダム建設時には、この周囲にも大勢の人が暮らし、建設現場で働いていたとか。今では空き家や別荘ばかりになり、ご近所さんは2軒ほど、70代、80代、90代の女性同士で助け合いながら、静かな暮らしを楽しんでいるという。むかし道で歩いたことがあれば、とびきり美しく薪が並べられたこの家にすぐ気づくだろう。その整然と置かれた薪は、週に一度帰ってくる息子さんが管理。娘さんも月に何度も来るという、あたたかい家族の繋がりは今も変わらない。「もうほんと、私一人だからこんなに大きい家はいらないんだけど、壊すわけにもいきませんしね(笑)。まあいろいろ楽しいこともありましたし、今は天気の良い日に編み物をするのが楽しみですかね」。BGMは、時折聞こえる鳥の歌や川の水音、木々のさやめき。家の中をゆっくりと移動する奥平さんのそばには、いつも可愛く微笑む猫のびーちゃんがお供している。傍目から見れば、これほどの贅沢はないと思える、深い山奥での日常だ。



奥多摩のスキとヒノキでできた夢のあるミニハウスはいかが？

都市生活者でも、森の恵みを楽しむことができる。そんなコンセプトのもと、ユニークな試みに挑戦する「東京・森と市庭」の菅原利さん。彼が教えてくれた新製品は、畳2畳分のスペースさえあれば15分程度で設置できる無垢の木の小屋だ。もともと保育園や幼稚園などの室内遊具としてデザインされたという。「無垢の木の遊具は触ってもひんやりしませんし、柔らかい木を使っているので身体をぶつけても痛くない。保育所で、先生から隔れ、子どもたちだけで安全に遊べる空間。それでいて大人は子どもたちが遊んでいるのを見守ることができる。それがこの“こだまのこや”です。接着剤は使わず、すべてが組み立て式なので解体も簡単。使い込んでいくうちに風合いも増していくので、“経年良化”を楽しんでも

らえたら」。子供たちが原体験として木材の良さを体感すれば、数年後には木材の需要も増えていく。そうすれば奥多摩にあるヒノキやスキの需要が増え、間伐が活性化し、森が健康になる。このような長期的視野で奥多摩の山を守っていくのが菅原さんの大きな目的でもある。「もう少し小さいサイズも設定しようと考えているのでそれならマンションのリビングにも置けるでしょう。無垢のヒノキやスキには抗菌、防臭、調湿効果のほか、香りによって疲労回復や血行促進など多くの効果もある。この“こだまのこや”で、都市で暮らす人々に森の雰囲気を感じてもらえればうれしいですね」
 間/東京・森と市場 <http://mori2ichiba.tokyo.jp>



in a Green Mood

森暮らしの楽しみを街へ



薪ストーブのロマンと喜びを都市マンションでも

かつてはどの家の軒先でも見られていた野焼きが、法律で禁止されるようになって久しい。悠久の昔から人間が営んできた「火を燃やす」という行為は、日常から縁遠いものになってしまった…。そんな「火」の喜びを取りもどしてくれるのが、薪ストーブだ。暖房器具として優秀かつ燃料も手に入れやすいことから、森の家では愛用者も多い。そんな薪ストーブを「都市生活者の日常にも」と考えているのが、白丸に工房を構える村山英治さんだ。村山さんは、IC開発を生業にしながら、数々のアイデアを形にする発明家という顔を持つ人である。「マンションで使える薪ストーブを作りたい。煙も匂いも出さず、安全性が高いもの。自然に癒されるように、火を見るだけで心と

む人もいるだろうから」。燃焼温度が高く、化学物質が残りにくいロケットストーブの構造をベースにしながら、様々なアイデアを投入。着火消火は電気式を採用し、熱発電のオプションで停電時の使用も可能に。煙を水にくぐらせるシステムを作り、臭いや煙を除去。通年利用するために輻射熱のON/OFF機能を備えながら、オープンの機能を搭載させる……など、友人達と共に試行錯誤をしながら開発に取り組んでいる。「今年中にはなんとか形にする予定。昔のように山の資源を有効活用するための一助になれば嬉しい。若い人達にも参加してもらえたら」。興味のある人は「青梅小水力発電プロジェクト」で検索、facebookページから連絡を。

WELCOME
to
**OKUTAMA
TOWN!!**

もり
東京の森林へ移住定住のススメ

都下での生活と自然豊かな環境を両立する奥多摩町では、移住・定住者を迎えるために、さまざまな支援を行っている。住宅支援や子育て支援制度も充実しており、ファミリー世帯にも暮らしやすい町だ。

若者定住応援補助金

奥多摩町で住宅を新築、増築、改築、購入された方に、補助金を交付。事業費が50万円以上。事業費の2分の1以内、最大で200万円の補助。事業を実施後、1年以内のもの。補助等を受けることができる回数は1回のみ。
 対象者: 年齢45歳以下の夫婦又は50歳以下の者で子ども(中学生以下の者)がいる世帯、若しくは35歳以下の単身者。

住宅資金借入の利子補給

奥多摩町に定住を目的とした住宅を新築、増築、改築、購入された方に、資金借入に対する利子補給を実施。融資金額500万円以上で償還期間が10年以上、借入利率の2分の1、年額30万円以内(給付期間36か月)。
 対象者: 年齢45歳以下の夫婦又は50歳以下の者で子ども(中学生以下の者)がいる世帯、若しくは35歳以下の単身者。

子育て支援

【乳幼児】 保育園入園時に係る費用の一部を助成。町内保育園に通園するお子さんの保育料を全額助成。医療費(保険適用分)を全額助成。
 【小・中学生】 入学時に係る費用の一部を助成。給食費、通学費、医療費(保険適用分)、中学生制服等購入費を全額助成。多子家庭またはひとり親家庭の学童保育の育成料の全額または一部助成。
 【高校生】 進学時に係る費用の一部を助成。通学費(定期代)、医療費(保険適用分)を全額助成。通学の送迎にタクシー料金の一部またはガソリン券を助成。

その他

いなか暮らし支援住宅、空家バンク制度、安く家が借りられる町営若者住宅、多子家庭の助成制度など、ほかにも定住および子育てにまつわるさまざまな支援を行っている。

お問い合わせ: 奥多摩町子育て支援・定住応援総合窓口 若者定住化対策室 Tel.0428 83 2310 <http://www.town.okutama.tokyo.jp>

Editor & Writer & Photographer: Yukiko Soda [miguel] Writer: Hiroshi Utsunomiya [miguel] Art director: Atsushi Kodani Illustrator: Toshiyuki Hirano

発行: 奥多摩町役場 ※このタブロイドは、奥多摩町の「元気なまちづくり推進事業」の支援により制作されています
 編集&制作: 株式会社ミゲル 〒198-0101 東京都西多摩郡奥多摩町大丹波640 miguel@dg8.so-net.ne.jp <http://www.miguel-web.info>
 本誌は奥多摩町内の各観光施設、JR青梅線各駅構内、都内協力店などで配布しています。店頭などで無料配布にご協力いただける施設を募集中です。ぜひお問い合わせください。

